

インターナショナル新書

# 孤独のレッスン

定価:979 円(10%税込)

体裁:新書判/240 ページ

発行:集英社インターナショナル(発売:集英社)

ISBN:978-4-7976-8119-2

ベストセラー『極上の孤独』の

**下重暁子をはじめ、  
文学者、漫画家、探検家など  
総勢 17 名が登場！**



4月7日 (金) 発売

齋藤 孝 (教育学者) / 仏陀に学ぶ、単独者としての作法

中条省平 (フランス文学者) / 孤独と追放——アルベール・カミュ最後の一〇年

奥本大三郎 (フランス文学者) / 永井荷風——独身者の悦びと不安

南條竹則 (作家・翻訳家) / 孤独の詩を読む——ポオとラヴクラフト

鈴木雅生 (フランス文学者) / サン=テグジュペリ——人生と思索を鍛え上げたもの

岸見一郎 (哲学者) / 三木清と孤独

新元良一 (作家) / ソロー『森の生活』が語りかける声

適菜 収 (作家) / 孤独の哲学者ニーチェ

下重暁子 (作家) / 孤高の俳人 尾崎放哉と種田山頭火

岸 恵子 (女優・作家) / “孤独”を取り込み、自由に生きる

田中慎弥 (作家) / 引きこもり作家のリアル

高村友也 (作家) / 「意識の孤独」の手綱を引いて生きる

林 望 (作家・国文学者) / 隠遁者の孤独

荒木飛呂彦 (漫画家) / 孤独のゾンビ映画論

石戸 諭 (ノンフィクションライター) / ジョン・ル・カレが描くスパイの孤独

吉川浩満 (文筆家・編集者) / サピエンス——孤独な種の恍惚と不安

角幡唯介 (作家・探検家) / 単独行がもたらす究極の孤絶

日常の中でふと感じる孤独はどこからやってくるのか。

孤独に向き合った作家の評論や、冒険や山小屋生活から得た知見など、総勢 17 名の著者が贈る、各人各様の孤独論！ 孤独を愉しむためのヒントが満載の 1 冊。

雑誌「kotoba」（集英社刊）の特集「孤独のレッスン」（2018 年 12 月刊）が、新書になって再登場。

## ——「はじめに」より抜粋

二〇〇〇年以降のグローバル化に伴う労働環境の変化やインターネットの普及によって、私たちの生活は急速に変化しました。その中で**少子高齢化**や**核家族化**などが進み、現在の**単身世帯**や**単身高齢者**の増加につながっています。かつての地縁・血縁といった**人と人との関係性は薄まり**、他者と**「つながり」を持たない人**が多くなってきたのです。

さらに二〇二〇年から猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響で、生活様式ががらりと変わり、家族や友人、恋人と**会うことが以前より難しくなりました**。

まさにいま**「孤独」の状態にいる、もしくは「孤独」を感じている人が増えている**のです。

本書には**孤独と上手に付き合っている方、孤独で事を成し遂げた偉人、孤独そのものについて考えを深めている人**、などの言葉が数多く登場します。「大いなる孤独がなければ、真剣に創作などできない」という言葉を残したのは**パブロ・ピカソ**ですが、そのようなストイックな考えに触れているうちに、**孤独を受け入れ、味わい、楽しむ勇氣**が生まれてくるはずです。

本来、本を読むという行為は孤独な作業ですが、本書を読んでいる間は孤独感が薄れている、読者の方々にとって、そんな一冊となれば幸いです。

**※ぜひ貴媒体にてご紹介をご検討いただけますと幸いです。**

**書影、著者インタビュー等、以下までお問い合わせください。**

【本書のお問い合わせ・取材申込先】

編集担当：集英社インターナショナル 出版部

電話 03-5211-2630 公式サイト <https://www.shueisha-int.co.jp/>